

責

責は、𠄎と貝の会意形声字です。𠄎は束^{セキ}の略字です。束は、木にとげの形を表わした冂を加えて、“とげのある木”という意味を表わした部首で、これにリ(刀)を加えると「刺」(さす)という字になります。束 = 𠄎は、部首としては言うことを聞かないと刺すぞと言って“せめる”意味を表わします。

責は、“貸した金(貝)を返せと言ってせめる”というのが本義の字です。これは、“人としては当然なすべきことを人に求める”ことなので、“義務”という意味にも使われます。音は𠄎です。責任、責務、職責。

積は、“責任として納入すべき稲(禾)”という意味の字で、35 頁の「租税」の本字です。「租」の項で説明したように、税として納入すべき米はもみのままで積まれますので、「つむ」という意味を表わしたのです。「つむ」ことを表わした「租」が「税」という意味を表わし、「税」という意味を表わした「積」が「つむ」という意味を表わしているのは、興味あることではありませんか。音は責^{セキ}。積載、積雪。また“積んだ**かさ**”をも

意味します。容積、体積。また、「消極」に対して「積極」という使い方もあります。

績は、責と糸との会意形声字で糸を“つむぐ”という意味を表わした字です。糸をつむぐ様は、実にせわしく責めはたっているようですので、「糸を責める」という字になりました。音は責^{セキ}です。紡績。また、“でき上がった仕事”“できばえ”の意味にも使われます。成績、功績。積と績とをよく混同する人があります。しかし部首の意味を土台に、しっかりと本義を理解すれば混同することはありません。

積は、石が積み重なってころがっている“かわら”(川原)のことです。音は責^{セキ}です。

漬は、“水責め”という字で、“水につける”という意味を表わしました。沈漬(沈んで水に漬かる)。今は、多く「みそ漬」「かす漬」などの使い方をしていきます。